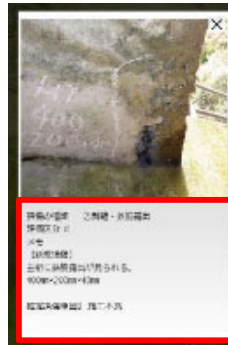


技術概要書（様式）

※別紙2

出展技術の分類	<input checked="" type="radio"/> 安全・防災 <input type="radio"/> インフラDX <input type="radio"/> 維持管理 <input type="radio"/> 環境 <input type="radio"/> コスト <input type="radio"/> 品質 （該当分類に○を付記）		
技術名称	点検結果共有システム	担当部署	九州支社 技術第一部
NETIS登録番号	—	担当者	松尾 茂樹
社名等	サンコーコンサルタント株式会社	電話番号	092-271-2900
技術の概要	1. 技術開発の背景及び契機		
	現在は点検結果を記録様式、写真で整理し、損傷の状態等の共有化を図っている。しかし、現場を見てない方には伝わりにくい場合がある。そのため、VRで損傷の状態をリアルに確認できるシステムを構築し、より分かりやすいツールの開発を行った。		
	2. 技術の内容		
	橋梁点検、トンネル点検等で3次元データを取得、損傷を取り込んだ3次元VR空間を構築する。損傷に触れると損傷の概要（損傷の種類、評価区分、コメント、推定される損傷原因等）が表示され、リアルに損傷状況を把握することができる。 また、複数名が同時にVR空間に参加することで、VR空間内でコミュニケーションを取ることができる。		
	3. 技術の効果		
①発注者も含む関係者との円滑な情報共有 ②点検・取りまとめ作業の省力化 ③効率的かつ効果的な判定目合わせや技術伝承 ④第三者による効率的かつ効果的な照査			
4. 技術の適用範囲			
橋梁点検、トンネル点検など点検業務全般への展開が可能である。 また、トンネル点検で得られる情報は3次元画像のため、コンクリートの浮き・空隙などの判別はできない。そのため、現地点検時（近接目視点検時）の打音を収録し、モデルに反映させることで、VR空間内で打撃（打音）による浮き・空隙などの把握を開発中である。			
5. 活用実績			
社内活用中のため、具体的な実績はない。			

点検結果共有システムの概要



損傷の種類 ⑦剥離・鉄筋露出

評価区分 d

メモ
主桁に鉄筋露出が見られる。
400mm × 100mm × 20mm

[推定損傷原因] 施工不良

損傷をクリックすると損傷の種類、評価区分、状況等の確認を行うことが

図-1 橋梁点検と点検器具使用のイメージ



図-2 トンネル点検での活用

若手技術者教育・技術伝承への活用

点検業務の教育における課題

- ・損傷の発見や打音は学習できない
- ・講習会、現場見学などは機会が限られる
- ・時期、場所、移動時間、天候などの制約



教育教材ツールの活用

- ・学習内容や学習結果の共有化
- ・損傷を発見する力、評価する力などの知識を養う
- ・時期、場所、天候などの制約に縛られない



点検結果共有システム（VR）の活用

- ◆臨場感を味わえる
- ◆VR空間内で点検を疑似実施できる
- ◆熟練技術者からVR空間内で教育が受けられる
- ◆時間、場所、天候などの制約がない